町民総参加の町内福祉活動

住民主導の地域福祉活動といえば、まず挙がるのが町内会の活動だ。しかし今、町内会の活動は行き詰ってきている。加入者が減る一方、「加入しなくても困らない」とまで住民は言う。しかし超高齢社会を迎えて、特に小地域の福祉活動をもっと充実させなければならない。

では、町内の福祉をどうやったら充実させることができるのか。この際、町内会組織のあり方や活動形態等で思い切った発想の転換が必要だ。

1.地域はどうなっている？

⑴「ご近所」は５０世帯だった。ここに当事者がいる

①地域は３つの圏域からできている。市町村、校区、自治区。

②しかし実際はもう一つの圏域があった。「助け合い区」。平均５０世帯。「ご近所」と言っている。

③「助け合い区」の最大の特徴は、ここに福祉の当事者がいることだ。

④彼らは要援護でご近所から出られないため、ここを助け合いの場として充実させてほしいと言っている。

⑵「ご近所」で唯一助け合いが行われている

①ご近所は「顔が見える」範囲だから「助け合い」ができる。

②ご近所には、困っている人のお世話をする世話焼きさんもいる。世話焼きさんと当事者はご近所で相思相愛。

③そして大中小の世話焼きさんがネットワークしている。

2.町内会の役割変更へ

⑴町内会が町内全域の福祉活動を担うことの欠点

①これまでは、町内会が福祉活動をしていた。

②ふれあいサロンや食事サービス、一人暮らし高齢者等の見守りなど。

③今まではここが末端の圏域だから、ここで祭りや敬老会、趣味活動などをやっていた。

④しかし、人々はご近所（５０世帯規模）でまとまって生活している。特に要援護者にとっては、数百世帯の町内は広すぎる。

⑤だから、福祉ニーズも把握しづらい。連帯感もなかなか得られにくい。

⑵町内福祉はそれぞれのご近所に任せたら？

①思い切って役割を変更したらどうか。

②町内会はいくつかのご近所から成っている。５００世帯なら、１０個のご近所から成っている。

③だから町内会は、傘下のご近所をバックアップする役割を担えばいい。

3.超高齢社会を先取りしてミニチュア社会を作ろう

⑴超高齢社会で住民の行動半径は極端に縮まる

①これから訪れる超高齢社会。住民の行動半径は極端に小さくなる。

②ならば「まち」の範囲も小さくしよう。町内規模でやってきたことをご近所規模に縮めよう。

⑵スモール・イズ・ビューティフル

①町内にあったものをご近所に移そう。神社も、敬老会も、成人式も。サロンも趣味活動も。

②グローバル社会からミニチュア社会へ。スモール・イズ・ビューティフルだ。

③助け合いはもともと、町内規模では無理。ご近所ごとならできる。

4.町内主導からご近所主導への移行の仕方

⑴ご近所の問題をご近所さんたちの手で

①町内をいくつかのご近所に分割。複数班とか、地理的な事情を勘案したり。

②ご近所毎に世話焼きさん数名を探す。

③世話焼きさんと一緒に支え合いマップづくり。

④ご近所内の人材の分布や福祉問題、要援護者に誰が関わっているか、世話焼きさんはだれか、などをマップで探す。

⑵マップで出てきた課題を世話焼きさん中心に解決へ

①前項の事実を踏まえて、ご近所福祉推進組織を立ち上げる。

②マップで出てきた取り組み課題の一つ一つを、世話焼きさんを中心にして解決していく。それを町内会としてバックアップする。

⑶町内会の主催事業をご近所毎に移す

①これまで町内会として実施してきた事業を、これからはご近所毎に実施するように指導する。

②まずご近所の主催事業の中から、ご近所に移した方がいい事業をピックアップ。

③ご近所に移す場合、どういう取り組み方になるかを考える。

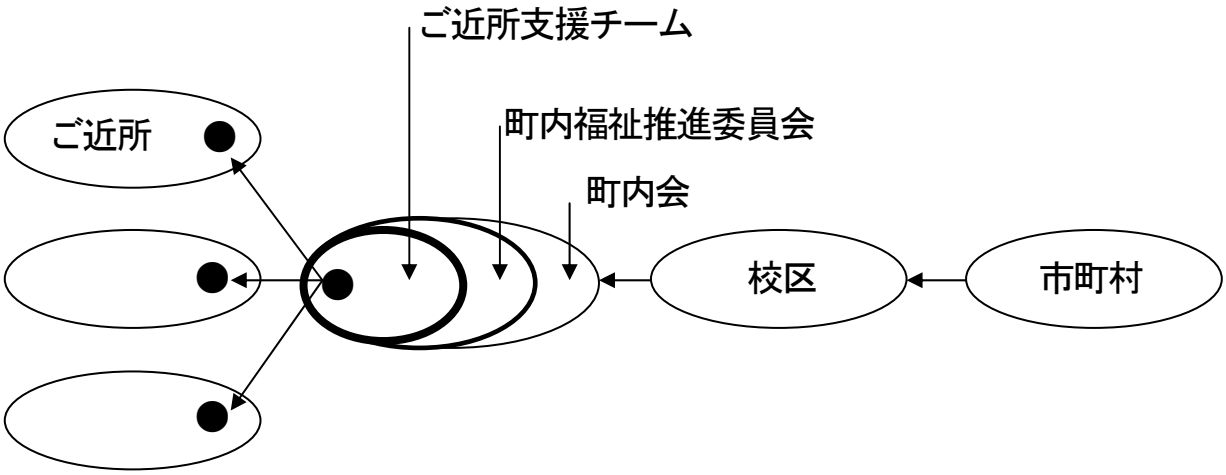
④例えばそれぞれのご近所毎に、その事業に類似したご近所活動を掘り起こし、それをもとに新しい活動をつくるなど。

5.町内会組織にご近所支援部門を設ける

⑴まず町内福祉を推進する部門を設ける

①これからの町内会事業は、自主事業の実施よりも、ご近所活動の支援が柱になる。そのために、町内会組織の中に、そうしたご近所支援体制をつくる。

②町内会の中に町内福祉推進部門を設ける。できるだけ福祉に詳しい人材で構成する。



⑵推進部門の中にご近所支援チームを編成

①この推進委員会の中に、ご近所活動を分担して支援するチームを編成する。彼らが各自自分の担当しているご近所の支援にあたる。

②ご近所支援者として最も有力な候補になるのは民生委員である。

③民生委員は、いつもご近所に出かけていて、要援護者に直接接触していて、要援護者の信頼も厚く、関係機関とのパイプもある。

⑶ご近所活動支援の心得

①ご近所は町内とは全く異なる世界。

②住民のふれあい・助け合いの流儀を尊重しよう。

③相性が大切・一対一の関係・双方向・ミエミエではなく・天性主義（世話焼きさんが活躍）。

④社会的・公的な関係ではなく、私的な関係。

⑤相手をまとめない・集めない・一方方向にしない・引き寄せない・十把一絡げにしない。

6.町民総参加の町内福祉へ

⑴町内会長に過重な負担が

①町内会の悩みの一つが、人材不足。

②会長に過重な負担がかかっている。

③定番の事業をこなすのに精一杯。

⑵「町内会に加入したくない」

①町内会の加入率は下がる一方。

②加入しない理由は、入らなくても困らない、役を付けられるのがいや、など。

⑶まず町内活動のあり方を見直そう

①行事を減らしてスリムに。前例に倣う必要はない。

②福祉問題に取り組もう。住民はこれを望んでいる（困ったときに助けてくれる町内会）。

③地域活動の主役はやはり女性。女性を主力にしよう。

④福祉に強い人を登用しよう。

⑷町民総参加はこうして実現する

①テーマ別にそれに強い人に任せよう。

②町内のさまざまな活動グループも仲間に引き入れて、それぞれの強みを生かしてもらおう。

③男性は本業の技術を発揮してもらおう。

④「動員」ではなく「技術をいただく」。

⑤ボランティア活動からセルフヘルプ活動へ。当事者同士で助け合い。

⑥当事者が各自、自分の担い手を確保する。助けられ上手の発想。

⑸日本人の活動参加の文化・風土を踏まえて

①日本人の参加パターンは、もともと受け身型。言われれば動く。

②「柔らかな強制」が日本人には合っている。上司がやっている、組織ぐるみなら、みんながやっているのなら。

③町内会活動は町民全員で取り組むべきもの。ある程度の強制も必要。